

環境メッセンジャーへの道④—予想してみよう。お隣の人の環境意識。

## クイズ！約100人に聞きました

日中韓の環境に対する意識や思いを街ゆく人たちに聞いて、どんな意見があるか集めてみました。お隣の人はどんなことを考えているのかな？想像してみよう！

東アジアをテーマにした設問を街頭でヒアリングし、集まった回答をもとに、クイズを出題しました。街頭調査時、クイズ解答時ともに、東アジアに対して何らかの思いを馳せてもらうのが主なねらいです。おかげ様で好評をいただきました。

### 【企画の詳細】

#### ■ 1. クイズ進行説明

1. 「東アジア」「環境」などをキーワードに、街頭やインターネットで意識調査をしてみました。
2. 概ね50～100人分の回答をもとにしています。「クイズ約100人に聞きました」です。
3. 人々が今、何を考え、どんな言葉やイメージを持っているか、当ててみましょう。
4. 回答人数の多い・少ないは問いません。言葉（またはニュアンス）が一致して、画面が開けばOKです。当てた方には、チケットをお渡しします。
5. クイズは2つ出題します。チケットが最も多かった方には、枚数に応じてプレゼントを差し上げます。

#### ■ 2. 街頭などで調査した質問（クイズ設問）

\*集計結果は省略（Webをご参照ください。⇒<http://www.chochoira.jp/ranking-quiz/expo2005/>）

街頭調査やインターネット等での調査にご協力いただいた皆様、ありがとうございました！（※インターネットでの調査は、6/13、7/4、8/19付で「アンケート100人に聞きました！」にて公開したものをベースに集めました。パビリオンでクイズとして活用させていただいた回答は、8/20までに集まった分までです。）

- Q 1. 「環境」と聞いて思い浮かぶ色 [6/5：新宿東口]  
Q 2. 日中韓に共通するもの [4/3：栄（オアシス21）]  
Q 3. ゴミとして捨てる時、もったいないと思うもの [4/23：代々木公園 他]  
Q 4. 日中韓に共通する環境問題 [インターネット調査+パビリオンスタッフ 他]  
Q 5. アジア（東・東南）と聞いて思い浮かぶ国・地域(日本を除く) [6～7月：都内某私大]  
Q 6. アジア（東・東南）で行きたい国・地域(日本を除く) [8/8・10：日本科学未来館]  
Q 7. 「地球環境」と聞いて思い浮かぶもの [同上]  
Q 8. 日中韓に共通するもの [4/23：代々木公園]  
Q 9. 日中韓に共通する環境問題 [同上]  
Q 10. 「○境」の○に入るもの  
[6月：神奈川県内某私大]  
Q 11. 日中韓に共通するもの  
[4/3：栄 + 7/3：名古屋駅西口 他]  
\*中国（主に北京）でも街頭調査を行いました。  
Q 12. 中韓日に共通するもの  
Q 13. 絶滅しそうな動物（特に中国で）  
Q 14. ゴミとして捨てる時、資源の浪費だ（もったいない!）と思うもの  
Q 15. ふだん実践している環境配慮行動



色々な方にお話をうかがいました

\*9/24、パビリオン来館者の方々に以下の追加調査を行い、翌9/25の最終日に特別クイズに仕立てました。リピーターのお客さんをはじめ、大好評をいただきました。

Q16. 「愛・地球博」を色でたとえると何色？

Q17. 日本・中国・韓国で一緒に取り組むべき環境問題と云えば？

### ■3. きっかけと経緯

往年のクイズ番組「クイズ100人に聞きました」(1979年4月2日～1992年9月21日放映)にヒントを得て、とにかく意識調査をしつつ、東アジア環境情報発信所が万博に出展することをPRできれば、というのが企画の発端です。回答に協力してもらった方に、PRカード(兼 プレゼント引換券)を配ることで、ふだん環境に関する情報やNGO/NPOに接点のない人達に何らかのアピールができれば、というのが当初目的です。

街頭調査用のキットを作って、まずは実際に調べてみることに。「何を尋ねるか?」については、①答えが極端にバラつかず(一定数の多数回答が得られる見込みが立つ)、②ある程度、連想・回答がしやすく、③回答そのものに共感できる、といった条件を設定。東アジア環境情報発信所と関連付けて、「環境」「東アジア」に因んだ問いを考えることにしました。

4月3日(日)午後、名古屋の中心街、栄にて、街頭調査を試行しました。(この時のお題は、「日本・中国・韓国に共通するものは?」)以降、調査スタッフがそろそろタイミングをしっかりと見定めて、集中的に調査をすることにしました。東京では、4月23日のアースデイ東京イベントの日が好機と決定。渋谷公会堂前からNHKホール横を通り、代々木公園B地区(アースデイ東京メイン会場)経由で、原宿駅をめざしつつ、代々木公園をひと巡り、といった感じで調査。昼食をはさんで、概ね4時間で2問、200人分の回答を集めることができました。この時の成果でメドが立ち、その後の展開に弾みがついたことは言うまでもありません。

6月5日は、環境の日(世界環境デー)。「環境」をテーマにした調査をするには絶好であるとらみ、新宿三丁目界隈の歩行者天国エリア～新宿御苑付近などで実施。

あとは、ボランティアスタッフの学生さんが、キャンパスで調査してくれたり、というのと並行しつつ、クイズ画面の制作に入ります。集計済みの分を使って、画面の基盤を作ってもらい、後から上がってきた集計結果をそこに足し込んでいく形。デモンストレーション(画面を使ってのプログラム進行の検証)に向けてステップ by ステップでした。



来場者と一緒に作るプログラムでした



街頭アンケートの回答者が来場してくれました

アンケートサイトを使った調査は、100人分集まるまでに、時間がかかることが判明。50人に達したら集計をとるつもりで、それでも達しなかったら、ボランティアスタッフの皆さんにも協力してもらおう目算を立てました。この時、「クイズ100人～」ではなく、概ね50～100人分の回答をもとに、ということで「クイズ!約100人～」で臨もうということになりました。プログラムの正式タイトルはこうして決まりました。

7月16日は、クイズ画面を動かしながら、解答者を5人1組にして順繰りで答える、という方法で試してみました。進行役によって、波ができるものの、高視聴率番組の手法を採り入れているだ

けあって、一定の盛り上がりは保証された感じ。出展プログラムとして、晴れてゴーサインが出た瞬間です。

そして、8月6・7日。スタッフ総出の研修&デモとしては最終回。クイズの本数も増えて、だいぶ張り合いが出てきました。あとはとにかく出題数を増やしつつ、進行役用の台本やら、解説の仕込みやら、をせっせとこなすのみ。ボランティアスタッフの皆さんからの知恵を借りつつ、本番に備えることにしました。

中国からの中味の濃い調査結果については、翻訳が早めに届いていたので、単純に回答部分を抽出し、データベースソフトで分析・集計。回答者一人につき、4つも5つも答えがあったため、合計数が100にならないというオマケつき。おかげで、説得力のある結果が得られました。8月12日時点で、11問分のクイズ画面ができ、さらにありがたいことに、夏休み中に日本科学未来館で2問分（小・中学生対象）を調べ上げてくださった方からの追加分も届き、幅広い客層に対してクイズが実施できるメドが立ちます。こうして、「いざ万博へ！」と相成りました。

#### ■ 4. 実演の状況

「クイズ！約100人～」は一日あたり、7～10回は実施。1回あたりの所要時間は2問の場合で15～20分だから、パビリオンの開館時間（9～21時）のうち、4分の1前後はこのクイズをやっていたような計算になります。（ニュースステーションは、午後を中心に5～6回で、1回あたり10～15分。2つのスタジオネタが開館時間の3分の1ほどを占めていた訳です。）

L I V E感のあるプログラムが相当時間動いていれば、自ずとパビリオンも活況を呈してくるものです。

お客さんから教えてもらうことも多々出てきて、それが双方向感を生みます。空間演出的にも好結果を得ることができました。ツッコミがあればそれはそれで妙味。うまくボケて交わせれば会場に笑いが起こります。社会科見学で立ち寄ったマジメな小学生をどう引き込むか、が難題でしたが、笑いをとるばかりのプログラムでもないので、臨機応変に淡々と進めたこともありまし

た。（笑いをとりつつも、解説は裏付けのある、しっかりしたものをお伝えするよう努力しました。）

賞品の配り方では、いろいろと悩ましい面もありましたが、中国、韓国から提供してもらった数々のノベルティのおかげでバリエーションが確保でき、引換券最多枚数の人に選択肢を付与することで乗り切った、という状況でした。

9月上旬時点で、ボランティアスタッフの中から、次々と進行役が登場し、それぞれの多様な（正にバラエティ！）クイズ進行が可能になったことも、プログラムの充実（＝時間の加速）に貢献。若手スタッフの皆さんから学ぶこともいろいろ。本当にありがたく、心強い限りでした。

9月24日は、ラスト2 D a y s 特別企画として、パビリオン来館者の方々に対して追加調査して、クイズ画面を再設定。24日に集まった結果が翌日にはクイズ画面になって公表できてしまう、これは画期的なことでした。



子どもにも大人気でした

## 来場者の声

- ・勉強になるし、子供から大人まで楽しめていい。
- ・面白い！ 楽しい！
- ・明日もまた来ます。



万博最終日、地球市民村の閉村時刻を迎えた時まで、クイズで盛り上がりました！

\*特に「これが素晴らしい」と思ったもの（一つ）では、スタッフ6名が当プログラムを挙げました。その理由としては、

- ・来場者を一番惹き付け、楽しませたので。（他の団体と差をつけたところ。）
- ・皆が楽しめたので。
- ・多くの来場者を惹きつけることができた参加型のプログラムで、環境のことに興味を抱くきっかけ、或いは環境に取り組む際の一つの方向性を示すことができたと感じるので。
- ・情報の収集及び発信の両方の過程、自分たちも学び、アンケート対象者、参加者にも考えてもらえる、考えるきっかけを作れるから。
- ・スタッフもお客さんも楽しみながら、結構色々な事が学べるから。
- ・アンケート回答者がパピリオンに足を運んで下さったのは意味があると特に感じたので。  
などの声が寄せられました。

## \*付記

- ・客席から答えが出た時、それは言葉が力を持つ瞬間だったのではないかと感じました。
- ・いくつかの答えをまとめて聞き出した時は、それらを会場が共有することにより、イメージがふくらんできます。クイズを通して、一人ひとりの想像力や伝達力を高めることに自然となっていたなら、プログラムとしての意味も結構大きかったのではないかと思った訳です。答えるという行為が、ズバリ発信所のテーマ「伝」だった、ということになりそうです。
- ・アタリ／ハズレは、盛り上げる上でのツールのようなもので、実はいろいろな言葉を導き出したことが、クイズの盛況につながったように思います。
- ・かけ声の「ある！ある！」も、答えた人に対する共感や共鳴があるからこそ出るものなんだと思います。大事な言葉ですね。
- ・コメントやまとめについては、十分な用意ができませんでしたが、用意がなかったことで、特に進行役を務められた方々の持ち味や力量が発揮されて、結果的には良かったと思います。